



◀南川小学校や国府小学校の児童、上越市柔道連盟の皆さんが応援メッセージを選手に寄せました(写真は南川小学校の横断幕)。

ドイツパラリンピック柔道チームが上越市で合宿を実施

2月26日～3月5日の間、ドイツパラリンピック柔道チームが謙信公武道館(県立武道館)で、合宿を行いました。当市での合宿は3回目で、東京2020パラリンピック開幕前最後の実施となります。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予定していた小中学生らとの交流事業は中止となりましたが、最新のトレーニング設備などを備えた練習環境をはじめ、新潟県警と県外大学の柔道チームとの合同練習、ホストタウンサポーターによるサポートもあり、ドイツ選手たちは「充実した練習を行えた」と話しました。また、小学校の児童たちから、ビデオや横断幕による応援メッセージが届けられ、受け取った選手たちはうれしそうなる表情を浮かべていました。

パラリンピックで2大会連続メダル(2012 ロンドン金メダル、2016 リオデジャネイロ銀メダル)を獲得しているカルメン・ブルスイヒ選手(女子48kg級)は、「前回も含めて上越市では完璧な合宿を行うことができた。パラリンピックでメダルを獲りたい」と意気込みを語り、市民の皆さんに向け、「東京まで応援に来てほしい」と呼び掛けました。

東京2020パラリンピックでのドイツパラリンピック柔道チームの活躍に期待しましょう！



▲ホストタウンサポーターが給水や練習参加者の受付、会場の清掃などをサポート。市では随時サポーターを募集しています。

東京2020オリンピック競技大会まであと **114日**
東京2020パラリンピック競技大会まであと **146日**

ホストタウンサポーターへの登録はこちら(オリンピック・パラリンピック推進室、☎025-545-9216)



※表示日数は4月1日時点です。



ヤニックのドイツ紹介 ⑤ Fünf (フュンフ)

イースター・エッグの起源

皆さん、こんにちは！ Guten Tag！（グーテン ターク）
国際交流員のディーツ・ヤニックです。
今回は、ドイツの春を彩るイースター・エッグについて紹介します。



©Goldi64 CC BY-SA 3.0

3月中旬から4月末まで、ドイツの食料品店では、カラフルに色付けられたため卵「オースター・アイ」(英語で「イースター・エッグ」)が販売されます。また、卵形のチョコレートなどのお菓子もたくさんあります。

イースター・エッグの起源はドイツと言われ、キリスト教において最も重要な祝日である「復活祭」(ドイツ語で「オースターン」、英語で「イースター」)が近づくと卵に色付けし、イースター当日(春の第一満月の次の日曜日)の朝に、子どもたちが庭やリビングなどに隠されたイースター・エッグを探し回るといった習慣があります。

この習慣は、産まれたばかりの新鮮な卵を長持ちさせて、さらに産まれた日が分かるように殻を染めたことからできたとされています。また、色付け

をするだけでなく、木に飾ったりもします。

ちなみに、イースター・エッグはウサギ(ドイツ語で「オースター・ハーゼ」、英語で「イースター・バニー」)が運んで来るものとされています。昔は各地域に住むカッコウ、キツネ、コウノトリなどさまざまな動物が運んでくれたようですが、ウサギの方が春らしい動物だと考えられたようです。イースター・バニーの形をしたチョコレートもとても美味しいですよ。



©Superbass CC BY-SA 4.0

またお会いしましょう！
Auf Wiedersehen！（アウフ ヴィーダーゼーエン）